

市民による公民館・図書館を！

連絡会ニュース

第3号 2021年12月6日発行

ちょっと待って図書館移転

連絡会こまえ

連絡先（周東）090(9012)0654

mshuto2612@kym.biglobe.ne.jp

やっぱり、ちょっと待って図書館移転！ 市民の声を活かした市民センターを

<署名>

「ちょっと待って図書館移転連絡会」の署名が連絡会ニュース第2号に折り込まれましたので、少しずつ届けられています。現在、3358筆になっています。新型コロナウイルスの感染予防のため、街頭での署名を中止していましたが、再開いたします。まだ、お済みでない方、周りの方に広げられる方はご協力をお願いします。

<第2回ワークショップ>

10/31（日）午前：市民センター改修ワークショップ、午後：新図書館ワークショップが開かれました。参加者はそれぞれ12名と17名でした。詳細は投稿記事をご覧ください。

<かわら版第1号の訂正記事、第2号に>

第1回ワークショップのまとめとして「市民ワークショップかわら版」第1号が発行されましたが、その内容について、事実経過や、意見のまとめ（一部抜粋）が内容を正しく反映していないとワークショップ参加者から異議が出されていましたが、ワークショップで話し合っていない部分は表現を変えること、「市民ワークショップのご意見まとめ（一部抜粋）」の“まとめ”を削除するなど、次号かわら版に訂正記事を出すことになりました。

<市民アンケート>

市民センター改修・新図書館整備のアンケートの回収結果は、第2回ワークショップでは統計処理できる部分のみの報告で、記述部分は未集計と

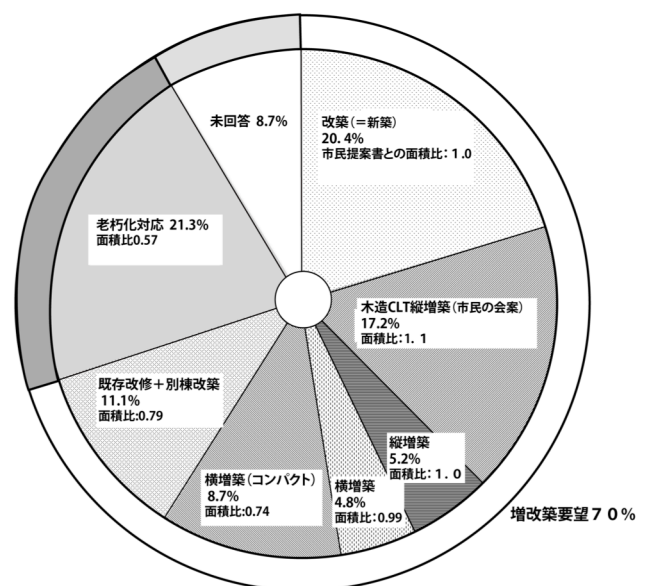
いうことで報告されませんでした。次回までの公表が約束されました。

<これまでのアンケートで示されている市民の声>

市民の意見の収集については、すでに

- ・市民提案書作成時の利用者アンケート
- ・昨年3月の市民センター改修に特化した市民アンケート

などがあり、後者では全面改築を含め、何らかの増改築を望む意見が約70%を占めています。ちなみに、新図書館案は市民センター増改築とは全く異なる発想ですが、その床面積で見てもコンパクト案の6割に過ぎません。



2020年3月のアンケート結果

市民センター改修第 2 回ワークショップに参加して

市民センター改修等ワークショップ参加者 西尾真人

10月31日(日)10時~12時に中央公民館ホールで第2回ワークショップが開かれました。

第1回目は最初の経過上の説明が不十分として、市の基本方針(狭い駄倉新図書館構想)がこれまで積み重ねてきた市民センターの増改築構想と全く異なるにもかかわらず、関係者の意見も市民の意見も聞くことなく強引に決めたことについて質問しました。それについて市と意見交換があったぐらいで、あとはポストイットに各自が思うところを書き、それをグループの一人が個人的見解を含めて部分的な紹介をすることに留まりました。そのあまりのひどさに私は愕然としました。その後、話し合ってもいないグループ内の意見がまとめられたかのような「かわら版」1号が発行され、抗議とともに「訂正のお願い」を提出しました。

そうして迎えた第2回ワークショップは参加者12名(半数)全員で議論が行われ、大切な結論を得ました。以下、要点を記します。

1. かわら版1号の訂正文を2号に掲載することを決めました。

「各チームで話し合った内容を全体で共有するために発表」とあるが、「話し合っ」ていない事実を踏まえて、表現を変えること。および「市民ワークショップのご意見まとめ(一部抜粋)」の“まとめ”を削除すること。

訂正文案はTOT(ワークショップのために市が委託した3社の連合体)に任せましたが、再び批判を受けない訂正を期待しています。

2. 市(TOTを含む)のワークショップを進める計画を変更し、今回はどのような市民センターを求めるのか、そのコンセプトを議論することになりました。市民の基本的な要求の根拠になるところで、市民センター(公民館・図書館)の考え方と具体的な要求が議論されます。

私は少なくとも1時間ぐらい全体で議論した上でグループ討議が良いかと思っています。全ての時間を全体で意見交換しても良いとさえ思います。

3. TOTのワークショップに対する考え方は、ワークショップ参加者は各自の意見を述べれば良いので、あとはTOTがまとめますと言い切りました。さすがに参加者から批判の声が上がり、最低限、議論(合意を得られるように努力する)をすることとされました。

4. 次回までに公民館利用団体アンケートと市民ウェブアンケートの、自由記述欄を含めすべてを公開することになりました。

どちらのアンケートも設問が答え難く、誘導的なために自由記述の公開は個人・団体が何を求めているのかを真に知ることになると思います。

5. 市のスケジュールに拘らず、必要な回数のワークショップを求める意見が強く出されました。

非常に大事なことだと思います。市民が合意できる市民センター(公民館・図書館)を話合えるワークショップになれば良いと期待しています。

公民館・図書館を使うのは私たち市民です。私たちが合意できる市民センターを私たちの手で作り上げたいと思います。市の「基本方針」で要求が満たされないなら、それを越えたより良い案を考えだしたいと思います。それがワークショップのすべきことではないでしょうか。

第3回市民センター改修ワークショップ

1. 日時及び場所

- ・12月12日(日)午前 9:30~12:20
- ・中央公民館 地下ホール

2. 内容(予定)

- ・今後の進め方
- ・テーマ「新しい市民センターに求めるもの」
- ・テーマ「必要な設備・機能を考えよう」
- ・その他

第3回新図書館の整備に係る市民ワークショップは同日午後2時~4時
どちらも傍聴できます。

市民センターの増改築のはずが

そもそもの原因は昨年8月に突然に「市民センター改修等基本方針」なるものを庁議決定し、市民に押し付けてきたことです。

それは駄倉地区にある商工会議所を高架下に移転、駄倉地区センターと小学生クラブを廃止して、そこに3階建ての新図書館を建設し（実質面積は現在の約700m²から800m²に増えるに過ぎない）、移転する。市民センターには現在の公民館と現在高架下にある市民活動支援センターを移動、さらに図書館の一部（例えばとして市長は児童図書などを挙げる）を図書コーナーとして残し、改修するというものです。

この決定は図書館・公民館の館長を含め関係者はカヤの外で、それまで進められてきた市民との会話を閉ざしたものです。また、中央図書館の分離問題や「駄倉新図書館」の狭さ、さらに庭なし、利用者の駐車場なし、少ない駐輪場など環境の悪さなどから、昨年9月の市民説明会でも賛成意見は全く見られず、圧倒的に反対や危惧の声でした。しかも市民センターの改修工事を先行させるために2年半～3年、図書館の利用ができなくなるという計画です。

公民館と図書館は、もともと現在ある市民センターの増改築問題として、2016年にまとめられた「市民提案書」が軸になって市と市民の間で話し合われてきました。今回の市の「基本方針」の問題は、積み重ねてきた市民協働を裏切ったこと、

その方針は市民の願い＝暮らしを豊かにする（ゆったりした、蔵書も倍増した）図書館、すべての市民に開かれ、人がつながる公民館＝を裏切ったことにあります。

既に「ちょっとまって図書館移転連絡会ニュース」1号、2号にあるように、移転した図書館はスペースを取れば蔵書は減少、蔵書を増やせばスペースは取れない、果ては児童図書を切り離しする（市長意見）一方、市民センターは児童図書コーナーが残る中で市民活動支援センターを押し込み、さらに駄倉地区センターを廃止するのです。これでは公民館のスペースはほとんど広がりません。

こんな状況下で、そもそも基本方針のためにワークショップを開くこと自体に本来は無理があるのではないのでしょうか。

市民の皆さん、駄倉新図書館構想は現状とほとんど変わらない床面積の中で、現状の平面から3階になり、一般の駐車場も庭もない周囲環境、そして、あるジャンル（例えば児童図書）の本は全くないという中央図書館に、17億円（市民センター改修と併せて）も掛けることをあなたは望みますか？建設すれば60年は使い続けるそうです。子どもや孫にまで影響します。この無謀な駄倉新図書館構想をストップさせるために、今こそ署名し、声を挙げ、反対の意思を示しましょう。

第2回図書館ワークショップに参加して

林 健彦

第1回目の図書館ワークショップは市民センターワークショップとほぼ同様でしたので、ここでは2回目（10月31日午後開催）を中心に記します。参加者は17名。全30名の約半数に減少。テーマは「今後のサービスや利用者層を考えよう」。TOTは、ワークショップの回数を1回増して6回になどを説明。しかし午前中のワークショップ

で約束した「かわら版1号」の訂正記事を2号で掲載、ウェブアンケートの記述式回答の集計結果を次回までに公開することについては当初触れず、フロアからの発言を受けてしぶしぶ認めるなど不誠実な対応でした。

また館長は長靴チームの発言者からの抗議でかわら版の表現を訂正した（訂正済のものを配布）

と説明しましたが、終了間際に解決済みとしての説明で問題が残りました。

またフロアからは市民提案書が求めている市民協働を進めること、基本方針の駄倉新館は、市が調査依頼した建築方法5案のうちの「分散案」よりさらに狭いと発言がありましたが、TOTはワークショップは基本方針の枠内で進めたい、市に対する意見は別の場でと取り合わず、駄倉新館ではなくまともな図書館をといった意見にも同じ対応でした。

一方1回目と異なり、曲がりなりにも各チームで議論ができました(午前中の抗議の成果ともいえます)発表内容をみると「今後のサービス」として3チーム(4チーム中)共通であげた機能は①バリアフリー(障がい者へのサービス、来館が困難な方へのサービス、シニアへのサービスなど)②スペースの充実(ゆったりくつろげる、手に取って見られる書棚を、武蔵野プレイスの小型版)でした。また2チーム共通は①調べる機能の充実(読みたい本にたどり着くには司書の充実を-現状では質問しても説明してもらえない-、知の拠点として)②蔵書の充実(粕江市の地域資料を、図

書館の3要素:建物・資料・人の確保を)でした。

スペースや蔵書の充実は市民アンケートで毎年指摘される図書館への2大不満です。電子書籍については評価が割れました:1チームは本との代替可能。もう1チームは電子書籍で利用が多いのは実用書、電子書籍化は文庫化のさらに後とタイムラグがあり、活字図書とは棲み分けしており、代替困難。子どもには読み聞かせなど職員の手助け必要と。またウェブアンケート^⑪で現状に満足していないが57%と過半数、満足している14%の約4倍との指摘もありました。

今後については、ワークショップのなかで①二カ所に分散ではサービス低下、駄倉新館の面積では蔵書数かスペースのどちらかしか確保できず、市民ニーズにこたえられない、②市民提案書のコンセプトを具体的に検討:めざす利用者層はスペースの取り合いでなく、だれにとっても利用しやすい図書館が基本、各図書室の特色化ではなく、どこに住んでいてもひとしく全域サービスを受けられるよう保障することが先、を情報共有できればと思います。

「市民提案書」の提案～「学び・憩い・交流の場」としての市民センター

SMALL is COOL:小さいまちの良さを生かして 市民センターの増改築は、単に建物を一新するだけでなく、粕江市の中心部「市役所エリア」のまちづくりとして考えることが大切です。日本で面積が2番目に小さい市である粕江市は、人の顔が見えるまちであり、市民同士、市民と行政の関係でもほどよい距離感で関わるのが可能です。その小さいまちならではの「良さ」を生かしたまちづくりを進めていくことが必要ではないでしょうか。そして、その重要な役割を担うのが、市民同士がつながり育ちあう、「学び・憩い・交流の場」としての市民センター(中央公民館・中央図書館)です。

<具体的提案>

いつでも、誰でも、ひとりでも～市民が育ちあう学び・憩い・交流の場

- 1) コミュニティ・スペース新設 ～すべての市民に開かれた憩いの場～
- 2) 人がつながる公民館 ～部屋数増、青少年の居場所づくり～
- 3) 暮らしを豊かにする図書館 ～スペース 3.6 倍、蔵書 2 倍でゆったりと～

この「市民提案書」は、単にスペースを提案するものではありません。今後市が増改築にあたって必要な調査をし、プロポーザルやコンペなどを行いながら、市民と専門家と行政が一緒になって進めていく「市民協働」のあり方こそが最も重要であると提案するものです。議論の中で、ひとつひとつの意見が大切にされ、異なる意見を受け止めるプロセスが市民の納得へとつながり、まちづくりへの参加意識、当事者意識へとつながっていきます。こうした市民協働は、顔の見える小さなまち粕江だからこそできることであり、全国に誇れる「粕江方式の公共施設づくり・新たな市民協働」といえるでしょう。